

農事組合法人「ふなえだ」代表理事

井尻 稔さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「農地を守り、景観を守る。そのために法人がある」と、生産組織の維持、発展にかける思いを語るのは、南丹市八木町船枝地区の農事組合法人「ふなえだ」の代表理事、井尻稔さん(75)。同地区は亀岡盆地の北端に位置し、桂川の東にのどかな田園風景が広がる。法人は2016年7月に設立。出資費回した農家38戸が参画する。以前から生産組合をつくり農作業受託や集団転作で小麦、大豆、小豆を栽培してきたが、少子高齢化による担い手不足や耕作放棄地の増加で営農継続が懸念され、法人設立によって営農組織の体質強化を図った。

「法人化により、農地の賃借や取得がしやすくなった。また、信用力がつき、交付金や補助金を活用することもでき、安定経営が見込めるようになった」とメリットを実感している。

高品質米で農地守る



▶ 来年度から稼働する米乾燥調製施設を背にする井尻代表理事(左)と理事の関岡暁さん

設立当初の経営面積は、水稲4・1畝、麦と大豆・小豆6・3畝、作業受託2・1畝だったが、19年度には農地中間管理事業(農地バンク)を利用して農地を集積し、水稲7畝、麦と小豆6・4畝に拡大した。

20年度には、水稲を12・5畝まで広げる。水稲は「キヌヒカリ」と、加工用米として「日本晴」を栽培。麦は府

の奨励品種である「せときらら」を生産する。元肥には近隣の八木バイオエコロジセンターの家畜ふん尿を利用した堆肥を使う。

経営面積拡大への設備投資も惜しまない。このほど新たな米乾燥調製施設を建設した。延べ床面積353平方メートル、高さ7・5メートルの施設が来年度から本格稼働する。米は全量JA出荷で、収入

は安定している。「少しでも出荷価格を高くしてほしいという思いもあるが、このほど、色彩選別機などの設備も導入し、より品質の高い米が提供できる環境を整備した。高単価で販売してもらえそうな品質の高い京都米を作ろうと、米作りに向けたメンバーのモチベーションも上がっている」と井尻さん。「地域の出役していただく人に還元をして、一緒に汗を流して良いものを作っていきたい」と意気込みを語る。

インシシや鹿の獣害にも頭を悩ませる井尻さんだが、その視線は「ふるさとの農地を守り、次世代の後継者へ引き継ぐ」という大きな目標に向けられている。

■法人所在地 南丹市八木町船枝平井28の1。(電)0771(42)2195。

■法人概要 2016年7月設立。理事6人、監事2人。経営面積(2020年度) 米12・5畝(「キヌヒカリ」5畝、「日本晴」7・5畝)、麦と大豆・小豆(二毛作)6・4畝。農業機械 大型トラクター3台、コンバイン3台、汎用(はんよう)コンバイン1台、田植え機1台、ブームスプレーヤー1台、麦用乾燥機25石2台、米乾燥機3台(40石2台、30石1台)、色彩選別機1台、石抜き機1台など。